

山背古道 探検ガイドブック



やましろ ことう
山背 古道へ

山背古道とは、京都と奈良の間、南山城の山際をゆるやかにうねりながら続いている一本の小径です。古墳や、古くからのまちや、人々のおしゃべり声、どこかなつかしい景色に出会えます。



あなただけの宝物を探しに…
探検に出かけてみませんか？

探検に行こう



やまじろ 山背古道って？

城陽市、井手町、木津川市の
3つの市や町を通る、
全長約25kmの散策道です。

山背古道周辺は、おだやかな里山と
豊かな木津川の恵みを受け、育まれた
独特の文化と風景が息づいています。

卑弥呼の謎を秘めた古墳、平家物語や
山城の国一揆の舞台となった村々、
梅の香ただよう里山や、
サワガニやホテルと遊べる川辺、
そして人々の笑顔に出会えるまちかど…。

山背古道は、
様々な「宝物」に出会える道です。



この「宝物」を探すこと…
これが「探検」です。
いつもより、少しアンテナをとがらせて、
古道探検に出かけましょう。

それにはちょっとしたコツをつかめば、
だいじょうぶ。

まず、なんだろう？と思う好奇心を大事にすること。
これが発見のはじまりです。
何かテーマを定めてみるのもいいですね。
より深い発見へとつながります。

この「探検ガイドブック」では、

歴史 自然 暮らし

3つの視点を紹介し、あなたの探検を手助けします。

探検のすすめ

山背古道

アプリを見ながら山背古道を歩こう

体験・体感 アプリケーション

スマートフォン・タブレットで

山背古道の地図を片手に、GPS機能を用いて、楽しく快適に山背古道沿線を歩けます。また、各市町の観光スポットの紹介や、山背古道の沿線に位置するお店（まちかど案内所）の紹介や、山背古道沿線に関するクイズも楽しめます。

端末 ● iOS端末、Android端末
容量 ● App Store (15.8MB)
Google Play (9.2MB)
※各OSのライブラリの違いにより、若干差が生じます。
言語 ● 日本語、英語対応
入手先 ● iOS端末「App Store」
Android端末「Google Play」

配信開始 無料



昭和30~40年代、長池にお住まいだった
ところのとおきの体験談含め、宿場
町長池の、いきいきとした暮らしぶり
を探検してもらいます。



五陸上選手の力強い脚
力を武器に、探検の口マンを足で追う郷
土史家。

1. 長池宿場町くらし探検
宿場の町並みを探して

天井川で泳いで遊んだり、
毎年「サンキラだんご」をつくったり、
豊かな秋の井手を探検してもらいます。
ちまきづくりからリースづくり、なんでもこなす
創作派。



カブトムシ採りからマンタゲまで、
ポイント熟知のやんちゃ派。

2. 井手⇔多賀
身近な自然探検

山背古道探検記

ところで「探検」ってどうやるの？

まずは5人に、3つの市町(のほんの一部)を実際に探検してもらいました。
さあ、どんな発見があったのでしょうか？

教科書にも載っている「山城の国一揆」。
名前は知ってるけれど、どうもピンとこ
ない。当時につながる風景を探し、
上粕を探検してもらいます。



地域の歴史を探り、輪を拡げる、
山背古道探検隊長。

3. 上粕環豪集落 歴史探検
山城国一揆の面影を訪ねて

木津川べりの約3kmの道のりを、小学校
へと毎日通った。
恩恵を受け、ときに戦い、木津川ととも
に生きてきた「木の津」のまちの人々の、
くらしの知恵を探検してもらいます。



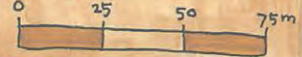
山城(やまじろ)の復旧作業
など、身近な歴史を掘り起こし、伝えてい
く肉体派(?)のご住職。

4. 木の津くらし探検
木津川と暮らす人たち

長池宿場町探検

宿場の町並みを探して

京都から五里、奈良から五里の「五里五里の里」、長池。街道筋の、宿場町ならではのまちなみが残るこの長池に、街道と、そこを行き交う人や文化を受け入れ、ともに生きてきた「まちばのくらし」を求め、探検しました。



探検は、
「マン」じやの



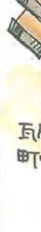
4000年前から人が住んでいた！
森山遺跡は探検の原点。
昭和51年、工事現場から見つけた土器片。
そこから調査がはじまり、縄文・弥生・古墳時代にまたがり、人が住んでいた集落の遺跡が見え、また、いかに、
「探検スピリットの原点。」
土器があったことを証明し、大昔から住みおこしています。



宿場の屋並みは、
「おに窓」や「通り庇」を特徴とする。京都市内の町屋と同じ。おに窓は料理旅館や商家、職人の家であり、農木とは違う「まち」の場を醸成していました。木と土は、あちこちから、三味線の音が「間」に入るこのまちに、木津川を越えていたんだろう。

今も現役 石の道しるべ

一本の道だけ、北行と南行で道の呼び方を変えているのがユニーク。注目すべきは背面に「水主渡船所」まで「七七」とあるところ。この道しるべが、たどられた昭和3年には木津川の渡し船が十分現役だった証拠。



このお茶屋さんの真裏にビルには、瓦屋根を窓、通り庇が、町の風情を残しています。

金糸系系土瓦は全国的に80%を産出する。



ここで、エンタメやコトの「等身大物語」を撮ったわで。



映画「元旅籠「松屋」さん。現在はお菓子店。戦後、長池は今よりも宿場町の風情が残って、しおやう映画のロケに使われていた。そんな時、映画スター達が泊ったのが、松屋さん。お店の中には、旅籠時代の資料が展示されていて、今でも宣伝ちらしに相当する「引き木し」や、必ず「全国安心お宿ガイドブック」といった内容の絵図、浪花講定宿図絵も



松島トモ子がお菓子を買って来たわ。かわいかったよ。



山崎のついた「山崎古道」の「引き木し」のデザインだ。



明治に建てられた郵便局。城陽が一番最初に建てたので、屋根瓦も凝っているよ。



江戸時代にこの地域にさつまいもの栽培を普及させた山崎利兵衛のお墓。

何と、さつまいもの形をしているのだ！境内にはもうひとつ、長池宿碑も

元旅籠「菱屋」さん

最も最近まで現役だった旅籠「菱屋」さん。今はその姿は見られませんが、垣越しに望めるお家の風情が当時の面影を伝えています。「冠木門」は明治天皇がお泊りになった！際、建てられたんだそう。



泊った時の「御木」看板は保存されています。



この先、山崎古道沿いを往くと幕末にたつ道しるべが見えるよ！

ひとくちメモ 京都と奈良の2つの古都にはさまれたこの地域は、古くから交通の要衝でした。街道を歩いて、あるいは木津川を船で、多くの人と物資と文化とが行き交いました。今は国道と鉄道がその役の大半を担っているようですが、歩くスピードで見つめ直すと、様々な時代の落とし子が見つかります。長池の他に井手町の玉水①、木津川市の中心部②などが宿場町のおもかげを残しています。

自然探検

11月も半ば、深秋の候。山背古道はまちの中、田畑、里山と、いろんな風景を通っていきますが、道中、足を止めるとそれぞれに、身近な自然がいっぱい見つかります。色づく秋、自然と親しみ、遊びながら、上井手から多賀へと、探検しました。

例えば「シブ(竹の一種)」を見つけたら？

いろんなアイデアが飛びだすよ！

お正月のおかざりにしましょ。

今も、やんちゃぶりかとまらない！

ドジョウ釣りのサオにしたぞ。

身近な

エサになるカワナ。巻き貝だよ。

発見！ゲンジボタルの幼虫。

小学生のころ、南谷川は今よりもっと水量が多かった。石でせまきとめて、プールつって泳いだぞ。

清流のある山間部に住み、魚をとる鳥...なんだけど？



高神社の社

昔ながらの照葉樹が茂る社

サカキは神様にささげる木。だから「神」と書く。

パリパサのつくり方

- ① 落ちていり竹を拾う。
- ② 先端を割り、枝などをささむと完成！



ここから望む木津川の眺めは最高！（標高約90メートル）



みんなでやってみよう 草花あそび

赤い実のついたサネカズラをくると巻いて、はい、リスのできあがり！（アケビ、フジなどなんでもできるけど、「山のどうじ」をする気分で、増えすぎたクズでっかってみて！）

カラスウリの種をとりだして

みると...「ほていさん」と「えびさん」がいたはるよ。あなたには何に見える？



桜の木と、それにかままるツツガみごとな紅葉。春もキレイだよ。

タケノコを採るモウソウ竹林

春、サバズミをつけて竹の皮でつむとオイシイよ。

見つけたよ山のめぐみ

サンキライ(山帰来) 葉は利尿作用あり。昔、山で遭難した人が、おなかをこわしたけれど、この葉、ほをしがんで治り、無事帰って来た、という話からついた名前なんて。

ムカゴ採りのコツは、ツルを引っ張らないこと。ムカゴを落とさないよう、下から手で受けとってね。ツルの先にはジネンジョ(山の苧)があるよ！

わいはい山行ったとき、お茶の葉つんで、そのままき火であぶって飲んだぞ

ひとくちメモ 木津川と、なだらかな山々に周囲を囲まれたこの地域。農業に、生活に、あらゆる場面でその恵みを受けてきた人々はまた、豊かな自然遊びも知っていました。木津川で水泳、天井川で魚釣り、里山でマツタケ採り、春の田でレンゲ摘み...比較的温暖で安定した気候のこの地域では、米のほか、茶、たけのこ、また、柿やみかん、ぶどうなど、果樹の栽培もさかんです。

勤労者福祉会館 自休村センター

天文台あり、星が見れるよ。山吹ふれあいセンター

釣れた？

うるせー!!

上井手へ。



歴史 山城国探検の面影を訪ねて

上狛環濠集落 探検

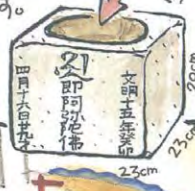
中世の南山城地方を舞台とする大きな出来事、「山城の国一揆」。そのころから続く環濠集落、上狛。周囲に堀割をめぐらし、地侍や農民たちが互いに協力しながら村を護ってきました。当時の様子を想像する手がかりを求め、上狛のまちを探検しました。

探検は想像力！
目の前に見える風景に頭の中で描いた風景を重ねてみよう。



大合戦の日付入り！五輪塔の地輪

「文明十五年 四月十六日」と周られた墓石の一部。1483年のこの日は狛で大合戦があり、殿さんの息子が亡くなったとされている日。まさにその日、その合戦で亡くなった人のお墓なのです。こんな形で合戦の証拠が残っています。



500年も前の墓石なのに周囲の無縁さんには比べるべき少ないお堂があって雨がからなかったのでは？
ということは 地位のあった人??
狛の北の護りを任されていた29のお墓の墓では??

殿さんの館にあった？大井戸
名人のおじいさん達が「いぬいの井戸」、「狛どの井戸」と呼んでいた井戸。「いぬい」は西北をさすことから、館の西北にあったと仮定すると館の位置が推理できる？



お狛さんが修行に使った石の洞窟。なせか縁には小さな穴が。実はこの穴は石の子達がままとしているうちにあいた穴！
名言誕生 ままごと石

狛氏の館と似てる？
小林家住宅
(京都市所有 非営利文化財)
江戸時代初期に建てられた庄屋さんの家。(築400年近い。府下で最も古い民家のひとつ)
国一揆の時代よりは少し新しいけれど、狛の殿さんの館もこんな感じだったのかも。



環濠集落について...

村の外 村の中
敵を寄せつけない堀割の断面
外部からの侵入を防ぐため堀をめぐらし、その内側には内部が見えにくくするため、竹林や雑木林になっていました。
上狛の8つの門 集落から道が外へ出ている8ヶ所の地点には門が建てられ、村に出入りする人や荷物を取り締まっていた。通過するだけの人を門番が北の門から南の門まで付き添うこともあったんだって。(↑ ← このマークが門のあったところ)

ひとくちメモ 京の都を中心に、全国の諸大名が東軍と西軍とにわかれて戦った応仁の乱。都に近い南山城地方はどちらの陣営にとっても戦略上重要なポイントでした。地侍のかしらである国人と、村人たちが団結してその勢力を退け、国人の合議による「自治」の国(惣国)を営みました。これを「山城の国一揆」といいます。
上狛の他に城陽市の富野①、寺田、水主、枇杷庄、木津川市の椿井②、木津川市の中心部③、など中世の自治の村、惣村の面影を残す集落がいくつかあります。

堀割で囲まれた内側が環濠集落なんだよ。
この「環濠集落」の面影を残す

戦火の跡が残る 泉橋寺地蔵石
青空の下、突然現れる巨大な石地蔵。お堂は応仁の乱の戦火で焼き払われ、石仏も損傷。お顔と手は江戸時代に復元。

謎目わかる？
焼け残った体の部分から想像してごらん。本当はこの石仏も、大きかったんじゃないかな...



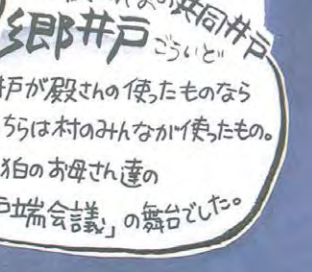
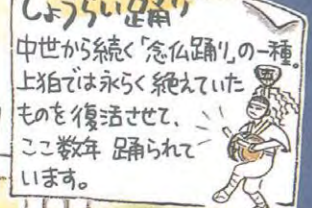
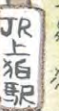
室町時代の「かりんとう」を再現 周辺のお店で買えますよ
この「環濠集落」の面影を残す

しょうらい踊り
中世から続く「念仏踊り」の一種。上狛では永らく絶えていたものを復活させて、ここ数年 踊られています。

この池の関を開くと環濠に水がたまり、濡れた土を固めたお城になったんだって。
足洗池

村のみんなの共同井戸
郷井戸 ござい
大井戸が殿さんの使ったものなら、こちらは村のみんなが使ったもの。上狛のお母さん達の「井戸端会議」の舞台でした。

井戸の横に残るフシギな木の柱。これに横木を通し石を重りに結びつけて水を汲み上げたんだって。
井戸



木の津探検 木津川暮らし人たち

「津」は港をあらわす古い言葉。木津の地名は、奈良の都の建設のため大量の木材がこの地で荷揚げされ、「木の津」と呼ばれたことがはじまり。でも、「津」が機能していたのは、そんな大昔のことだけではありません。川とともに生きる「木の津」の暮らしを探検しました。

今も残る 旧泉橋の橋台

古来、流されるたび、何度も架けられこきた泉橋。京と奈良を結ぶ「街道」が、ここに川を渡っており、陸路としても要衝で、あたこの証拠にここに残る橋台は、S28年の災害のとき流されて残ったもの。(上の写真は流される前の姿)

この辺りは川が、大きく蛇行して、流れが遅くなるから、架けやすい所でもあったのかな？



新しい橋は、緑走りをかけて、「三夫婦(男系子代か)とろつた夫婦」に渡り初めをもらった。

対岸の木津川市上粕には、行基が創建した「泉橋寺」があり、川の向こうとこちらから、木津の水運を見守っています。

木の津は、シルクロードの終着点か。



元船宿「川喜」

数十年前、木津の河原はもとどろろだった。川喜の前が舟付場になっていて、加茂から川舟で下り、打ち網でとった「はいしゃこ」(もろこに似た魚)をテン70りにして、舟上でいただくという川遊びが、川喜のおきんばおねえさん

私なんか、夕方おそくまで泳いでた。「H90W(かっぱ)」でやわわだった。

名「橋柱寺」大智寺の本尊は「橋の柱」

奈良時代、高僧行基が架けた橋が流された。残された橋柱が、時折不思議な光を放つ、というので、水中からあげ、刻んだとされるのが、御本尊の丈珠菩薩(重丈)。拝観要予約。



☎0774-72-2500 ◆拝観料 200円

和津の「はしまり」上津遺跡

奈良の都の建設のため、木津には大量の物資が荷揚げされたのが、ここ上津遺跡。シルクロードのはて、正倉院に今も伝わる異国の宝物は、やはりここを通ったのでしょうか。

御霊神社に保存されている*絵馬に江戸時代の木津の決の様子が、ここに「常夜燈」と「川喜」も描かれています。



町並み「木津川」良い。

この辺り、おじさうさんによく花がそなえてある。この辺りに、心のやさしい人が住んでるといふことかな。

木津惣墓五輪塔(重丈)

住宅地の中、不釣り合いなほど大きい。鎌倉時代のもので、洪水供養のためと、いわれる。

地倉輪や水車輪は、石臼や運物石にされて、失われることか、勿いけ、これはさあ、大きすぎて残ってるんかな。

女の人に「言われて」和泉式部の墓

平安の女流歌人、和泉式部は、この地の生まれ。晩年の足取りはわかりませんが、泉の地名*にちなみ、ここに墓が立てられました。20余年前まで墓守りをしていたのは、2人の尼僧さん。よく探すと境内のいたる所に、寄進者の名前が。それか、全部、「ウメ」さん、「こはる」さん、だり女の人の名前です。

ここは女の人にしか「言われて」

スクープ! 和泉式部は西念寺の僧に懸想い、通ったという逸話か! この顛末は??

どうも口説き落とされたみたいなんかなあ。

ひとくちメモ 山背古道の周辺地域は、ときに「暴れ川」の猛威にさらされながらも工夫を重ね、木津川とその支流がもたらす豊かな恵みを受け、ともにくらししてきました。ことに水運は、この地の流通と交易を支える大動脈であり、木津川沿いの浜は、近くは川向こうの町と、遠くは京、大坂、さらには海外へとつながる玄関口でもあったのです。木津のほかに、木津川市の吐師、城陽市の東上津屋、水主、枇杷庄、十六、井手町の玉水①、木津川市の致②、上粕③などに港や浜、渡し場がありました。

2 橋の諸兄
(たちばなのもろえ)旧跡と
井手寺跡



古代の役所あと、
正道官衙(しょうどうかんが)遺跡と古墳群 **1**

1



3 「蟹の恩返し伝説」と
国宝の仏さま、
蟹満寺

卑弥呼の鏡の謎を秘めた、
椿井大塚山古墳 **4**



5 国一揆ゆかりの
環濠集落、上狛

6 鹿背山不動と
石仏群



7 念仏石と
ゆるぎ観音

1 木漏れ日の美しい、
鴻ノ巣山散策道



2 やましろの一番早い春、
青谷梅林



3 万灯呂山の
見晴らし



4 果樹園と
木津川の見晴らし

6 山吹と桜堤の玉川

7 緑豊かな里山、森林公園

5 豊かな水と緑の大正池



8 ひろびろと気持ちのいい
木津川の河原



1 宿場まち・長池(ながいけ)
むしこ窓に通り庇、
宿場のおもかげ残る
まちなみ。



2 酒蔵のあるまちなみ・
奈島(なしま)
地域に根ざした酒蔵と、
石の道しるべの残る
まちなみです。



5 茶問屋の並ぶまち・
上狛(かみこま)
あちこちから茶の香が
ただよう、「東神戸」と
呼ばれた茶問屋のまち。



3 扇状地を見晴らす高台のまちなみ・
上井手(かみいで)
高みに氏神の社を抱き、
扇状地を見晴らす
気持ちの良い高台のまちなみ。



4 谷あいの美しい里・
神童子(じんどうじ)
美しい棚田の連なる
田園風景を抜けるとあらわれる里。
役行者ゆかりのお寺があります。



6 「木の津」・木津(きづ)

木津川とともに
暮らしてきた人びとの
くらしの知恵が見つかります。



そのほか
たんかんおススメポイント

北の城陽の方は京都風の流造(ながれづくり)
南の木津の方へ行くにつれて
奈良風の春日造(かすがづくり)になっていく。



他に立派な「舞殿」が
木津川市の岡田神社など
あちこちに亘っているよ。

狛犬
狛狛子や子どろなどの
狐や牛などの神の使い
を置いている所もある。



神社の金真守の杜
は、とても豊か。この
土地の古くからの姿が
残っているんだよ。
ドンクリカが いっぱい!!

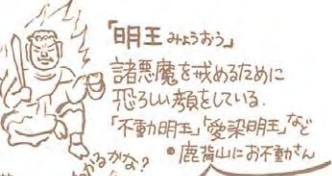
水飲み場ではナイ!
口をするせ、手を洗
身を清める所
鳥居



山背古道周辺の地
には古い時代からの
神社やお寺がいっぱい。
でもその違いは案外
知らないよね。この
ワークシートでチェック
してみよう!

なると! 神社・仏閣

ご本尊のい3い3



この地に「天」閻魔大王...
「鬼瓦」
日光をきかせてお寺を護る。
火災除けのシロ(魚)の屋の
形が乗っていることもある。

山背古道周辺寺院の宗派
「真言宗」「浄土宗」「浄土真宗」
「高田通念仏宗」「日蓮(法華)宗」
「臨濟宗」「曹洞宗」「真言律宗」
など

← こういう
一冊のお墓に
混ぜて。
こんな形の
「印土塔」が
これは、お坊さん
のお墓なんだよ。

これが発見の基本だ!!



道歩きながら... または 高い所に登ったとき...
木々のこんもりとした不思議な盛りあがりを探してみよう!
古墳は自然の地形を生かしてつくられていることが多いから、
山の稜線や丘の上がアヤシイぞ。

ヒント①

古墳の見つけかた

古墳博士へステップアップ!

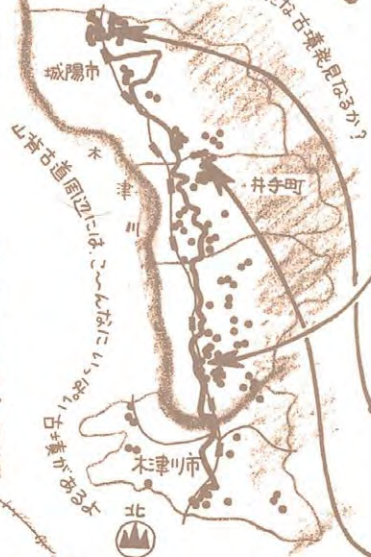
【かたち】日本にある古墳の代表選手

- 前方後円墳
- 前方後方墳
- 円墳
- 方墳

【年代】大きく3つに分けられる

- 前期(4世紀)
高いところにある大型のもの
(山の形を利用してつくった)
・木津川の椿井大塚山古墳 など
- 中期(5世紀)
低いところにある大型のもの
(技術の発達により平野部にも進出)
・城陽市の車塚古墳など
- 後期(6世紀)
山の稜線にある小型の群れ
(多くの方が自分の墓をつくれるようになった)
・井手町の茶臼塚古墳など

40面近くの鏡が
出土。そのうちのほとんどが
卑弥呼の鏡といわれている
「三角縁神蓋鏡」
なのだ!



その不思議な盛りあがりに近づいてみよう。古墳なら、標識や解説板が
立っていることがある。近所の人がいたら、聞いてみるのもいいね。

ヒント②

YES NO

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

周囲に土器や埴輪のかけらが落ちている。

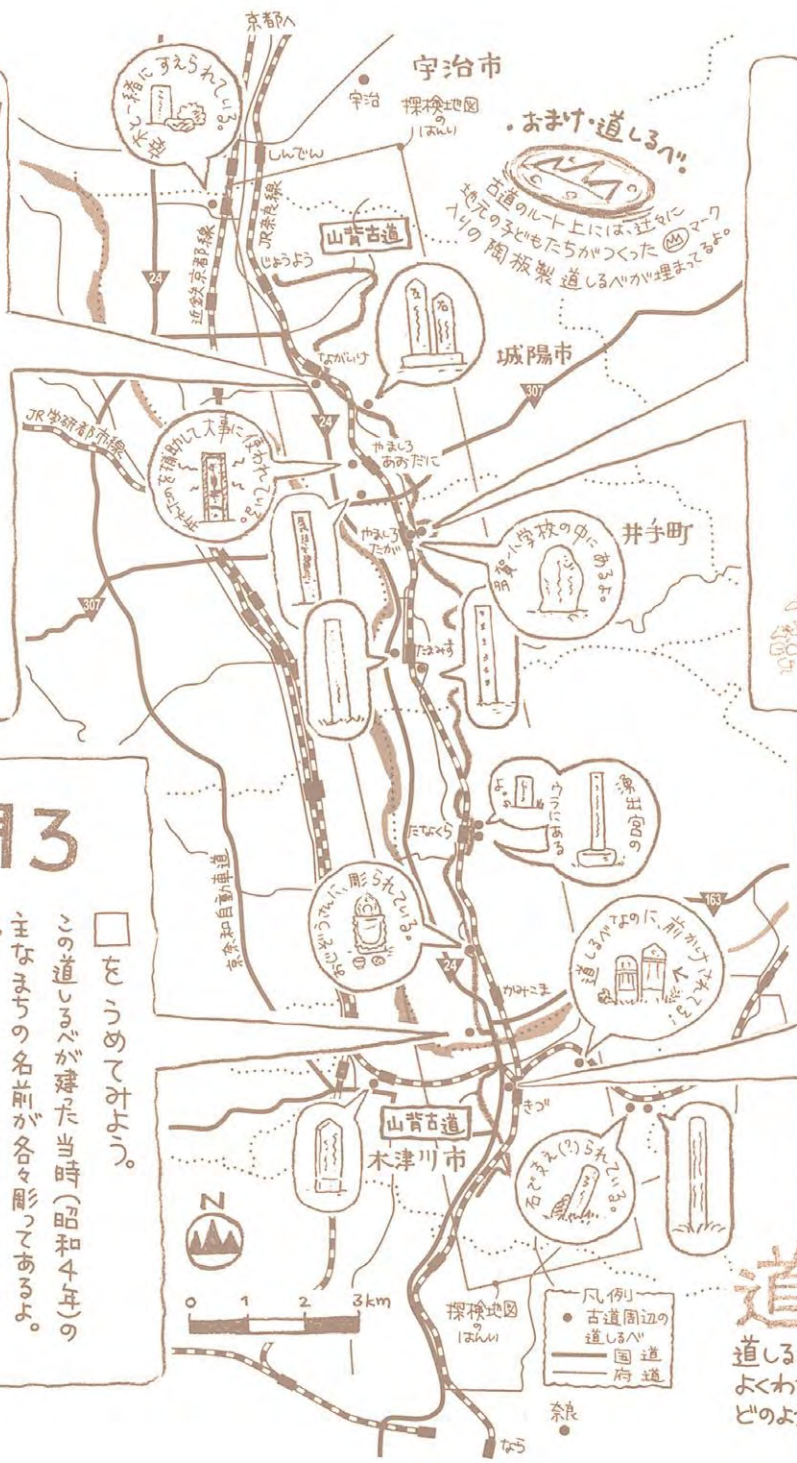
ぶきいし

周囲に貫石が落ちている。(これは日本の古墳の
特徴的な工法で、斜面を固めるために敷き詰めた。)

てっぺんに登ると大きな石(部屋をつくら)や、何者かに
掘りおこされた穴(たいていの古墳はすでに荒らされている)がある。

ヒント③





道しるべからの道しるべ

(北南面) (北東面)

南奈良街道

□ 木津 一里
□ 玉水 二里
□ 三里 三里
□ 四里 四里
□ 五里 五里

是北京都街道

□ 新田 廿五丁
□ 伏見 三里
□ 五里 五里

問1

□ をこめてみよう。

このあたりが、(ざっくりざっくり)五里五里(の)里で、
呼ばれるゆえんが道しるべに刻まれているよ。
おし くわしい場所は4ページを見てね。

道しるべからの道しるべ

(西面)

道

是より東

問2

□ をこめてみよう。

昔の藩守だけがまじりがえんが、
この先には滝があるよ。
おし 府道70号線沿い、
十字路の北東角にあるよ。

道しるべからの道しるべ

(西面)

道

厄除

問3

□ をこめてみよう。

この道しるべが建た当時(昭和4年)の
主な方々の名が彫が各々彫ってあるよ。
おし JR奈良線の駅名と似てます。
木津川の山城側の堤防、旧泉橋の
かかっていたところ(こ)に建てられています。

西京都街道

□ 四里 四里
□ 三里 三里
□ 二里 二里
□ 五里 五里

京都 七里
伏見 六里

道しるべからの道しるべ

(西面)

道

厄除

問4

□ をこめてみよう。

この道しるべが建た当時(昭和4年)の
主な方々の名が彫が各々彫ってあるよ。
おし JR奈良線の駅名と似てます。
木津川の山城側の堤防、旧泉橋の
かかっていたところ(こ)に建てられています。

道しるべからの道しるべ

道しるべをよく見ると、どのように道がつながっているか、
よくわかる。
どのように人が行き来してきたか、想像してみよう。

大正中期に作られた
四国八十八所巡り用の
お地蔵さんの木枠に88個
あるのかな?
(木津川市・上狹)



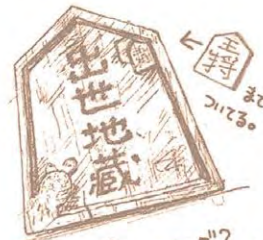
おそろいのまえかけを
つけてもらって、ハイポーズ!
(木津川市・不津)

おじいさん 大集合!

このあたりを歩くとたくさん会おう
お地蔵さんの土地を守り、守られている
みんないいカオをいしているよ



きれいに化粧
された3人衆。
(城陽市・長池)

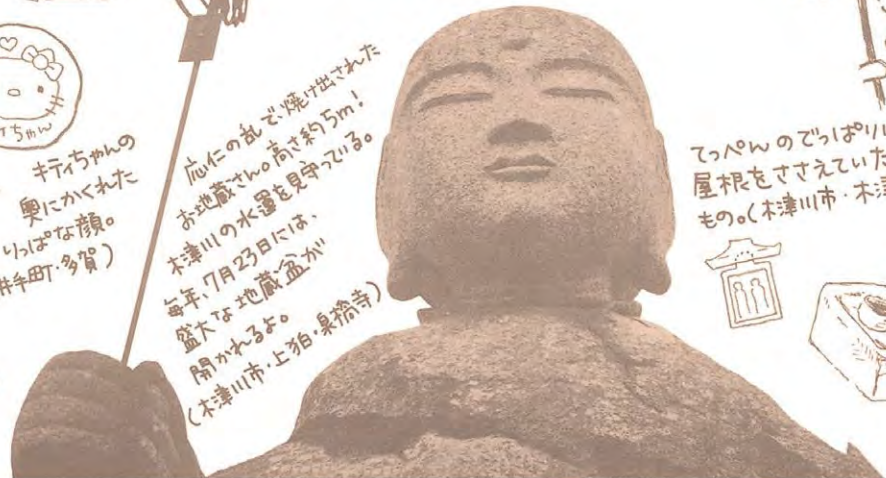


ムム!?
「出世地蔵」ってナンダ?
(木津川市・騎田)



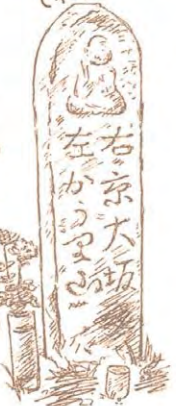
キイチちゃん
奥にかくれた
りっぱな顔。
(井手町・多賀)

庵にのれど、焼けてしまった
お地蔵さんの高さ約5m!
木津川の水邊を見守っている。
毎年、7月23日には、
盛大な地蔵盆が
開かれるよ。
(木津川市・上白・泉裕寺)



てっぺんのでっぺりは、
屋根をささえていた
もの。(木津川市・木津)

道案内も
してくれる
お地蔵さん
右「京・大坂」、
左「かうり山」
とある。
(木津川市・相楽)



色紙で
作った
「おまじな
がたつげ
(井手町・井手)

お母ちゃんの かぼう着



ふきのとう、たらの菜、つくし
よもぎ、竹の子... 山菜が
食卓に並び、春の訪れを
感じます。

歳時記

ちまき

木津川の
三河川敷で採れる
葎(れいそう)を俵に
くると巻き上げ



秋果りのごちそう
たくさん作って竹の皮で
包みます。



竹の皮の多いやましろ。
竹の皮を使った工夫がいろいろ



煮物の時
お鍋の底に
敷いてコゲ防止

夏

食物が
いたみや季節。
保存の知恵が
生かされます。

秋

これからやってくる
冬に向けて
秋の爽やかさを
保存しておきます。

切干し大根

火焔で採れた大根の皮を
細く切った天日に干す。



コロ柿

三友柿を干し、コロコロがし
まっ白に粉をふかせる。
お正月のお金袋の上にも
のせます。

かりん酒

庭先に実ったかりんを
1か月間、ホウトリカーに
漬けて完成。



大豆・小豆

カラカラに乾かすまで
じっくり干します。



おもち

年末は おもちつき。
豆、エビ、ゴマなどを入れた
寒もち(かきもち)も。



お正月の準備。
家ごとに各々の
習慣や味が
あります。



🌿 JRを利用する場合は…

京都または奈良からは JR奈良線に乗って、古道沿線の8つの駅（城陽駅、長池駅、山城青谷駅、山城多賀駅、玉水駅、棚倉駅、上粕駅、木津駅）のいずれかの駅で降りてください。

大阪からは JR片町線（学研都市線）を利用し木津駅経由または、JR関西本線を利用し奈良駅経由でJR奈良線にアクセスしてください。

🌿 近鉄電車を利用する場合は…

近鉄京都線の寺田駅から徒歩で約15分。

または新田辺駅、三山木駅、新祝園駅、山田川駅、高の原駅で下車し、バスまたはタクシーを利用してください。

🌿 車を利用する場合は… 最寄の公共駐車場を利用してください。

- **城陽市**：城陽市役所・城陽市総合運動公園・城陽五里五里の丘
- **井手町**：自然休養村管理センター
- **木津川市**：木津川市役所・木津川市山城支所（開庁日のみ）

※ 山背古道を自由に散策するなら、最寄りの場所まで公共交通機関と徒歩をおすすめします。



🌿 山背古道推進協議会

事務局：城陽市役所 商工観光課 ☎ 0774-56-4019 〒610-0195 京都府城陽市寺田東ノ口16番地、17番地
井手町役場 企画財政課 ☎ 0774-82-6162 〒610-0302 京都府綴喜郡井手町井手南玉水67
木津川市役所 観光商工課 ☎ 0774-75-1216 〒619-0286 京都府木津川市木津南垣外110-9

発行 ● 山背古道推進協議会（城陽市・井手町・木津川市）

<http://www.yamashiro-kodo.gr.jp>